



Title	ポストコロニアル・フォーメーションズ(5) 序言
Author(s)	
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2010, 2009
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77352
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

序 言

この報告書は、過去4年間刊行してきた同じタイトルの報告書の続編にあたり、シリーズとしては5冊目になる。昨年度までと同様、その基盤は、大阪大学大学院言語文化研究科の教員と院生をおもなメンバーとする研究会「ポストコロニアル・フォーメーションズ」（略してPCF）にある。

ところで今年は、言語文化研究科と旧・言語文化部がこの共同研究プロジェクトの企画を発進させてから、ちょうど10年目に当たる。私たちの研究プロジェクトはその後半の5年間継続してきたことになるが、さらにこのプロジェクトは、10年前からこの企画に参加したプロジェクト「カルチュラル・スタディーズの理論と実践」を前身としている。さらにこのプロジェクトは、その4年前から活動を開始していた研究会「カルチュラル・スタディーズ・サークル」（CSC）を基盤としていた。

このプロジェクトはこのように、両方あわせればかなり長い歴史をもつ研究会活動に基づいている。またこの研究会には、制度上プロジェクトの正規メンバーには加わることのできない研究科修了生なども参加し、この会を充実させるのに大きく貢献している。ほぼ月に1回のペースで、ポストコロニアル研究やカルチュラル・スタディーズの理論をはじめとするさまざまな文献にあたりながら、近現代世界における文化形成のありようについてあれこれと議論し合う場である。

「ポストコロニアル・フォーメーションズ」は、狭い意味の「ポストコロニアル研究」に特化させたものではなく、それぞれのメンバーの関心をできるだけ活かしながら、それとの関連で現在世界におけるさまざまなポストコロニアル性を探ろうとしている。この報告書に納められた論考も、大雑把に整理するなら、現代イギリスにおける「モダニズムの危機」（山田）や反人種主義運動の問題（稲垣）、ベルギー・ブリュッセルにおける「ポストコロニアルな場所」（井内）、ナイジェリアのポストコロニアル文学（村上）、オーストラリアの先住民文学（小杉）、日本の「近代の超克」論（伊勢）など、多様な場や状況を対象としている。木村は、上にも述べた研究会活動をより詳細に振り返った文章を寄せた。

このような複数形のポストコロニアル性の形成（フォーメーションズ）を私たちは今後も追究していく予定である。この報告書についてもみなさまの批判的なご意見・ご感想をいただくことができれば幸いである。